

## 視覚障害者の外出歩行時における問題点 アンケート結果より

加藤 浩司（財団法人中部盲導犬協会盲導犬総合訓練センター）  
大島 歩（財団法人中部盲導犬協会盲導犬総合訓練センター）  
佐藤 陽子（財団法人中部盲導犬協会盲導犬総合訓練センター）  
武重 良太（財団法人中部盲導犬協会盲導犬総合訓練センター）  
星野 志織（財団法人中部盲導犬協会盲導犬総合訓練センター）  
佐藤 志保（財団法人中部盲導犬協会盲導犬総合訓練センター）  
坂部 司（財団法人中部盲導犬協会盲導犬総合訓練センター）  
佐藤 洋子（財団法人中部盲導犬協会盲導犬総合訓練センター）

### 目的

当訓練センターでは、視覚障害者が安全に安心して楽しく外出ができるよう支援活動を1970年から継続している。しかし、視覚障害者の居住地の環境の変化や歩行ルートの変化などで、外出歩行時において安全・安心が確保できない場合がある。

今回、「外出歩行時における問題点」についてアンケートを実施し、外出歩行時の問題点とその対策について、結果が出たので報告する。

### 対象と方法

当訓練センターで訓練を受けた盲導犬ユーザーの63名、日常生活技術訓練室（通称：TDLルーム）利用者の23名、合計86名に対して、2010年6月1日からTDLルーム利用者23名には対面で聞き取りを実施した。盲導犬ユーザーの内60名には、点字版と拡大文字版を郵送し、6月30日をもって締め切りとし、60名(72%)から回答を得ることができた。歩行手段、外出頻度、単独歩行時の問題点、フォローアップの有無、その内容について検討を行った。

### 結果

対象者の性別（図1）は、男性26名43%、女性34名57%であった。

歩行手段（図2）は、盲導犬18名30%、

盲導犬・誘導8名13%、盲導犬・白杖11名18%、白杖13名22%、白杖・誘導3名5%、誘導7名12%であった。

1日の外出時間（図3）は、1時間以内が11名18%で日常の散歩と考えられる。

また、5時間以上が52%で半数以上の者が終日外出していると考えられる。

1週間の外出日数（図4）は、4日以上が63%でほとんどの者が外出しているようであった。白杖歩行なり盲導犬歩行で専門職より系統だった訓練を受けた者の外出の頻度の高さが伺える。年齢は31歳～80歳で平均59.8歳であった。

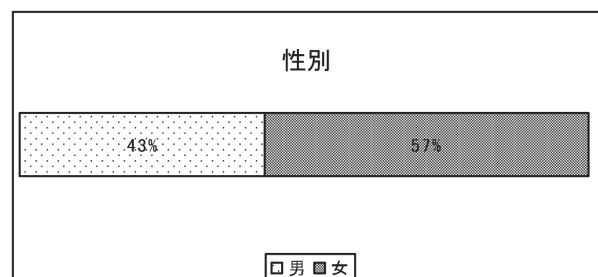


図1

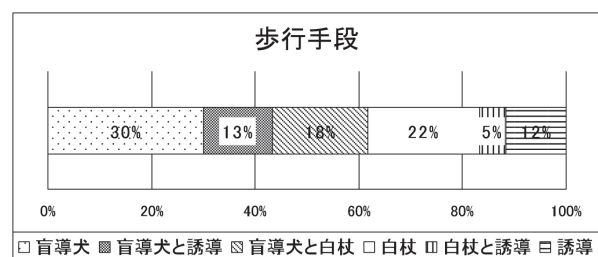


図2

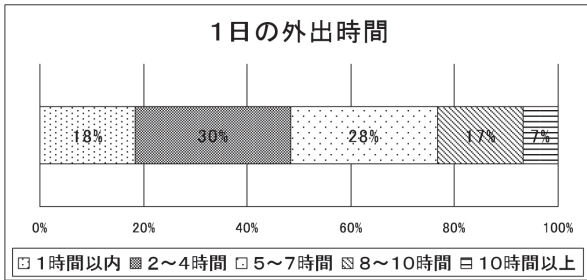


図3

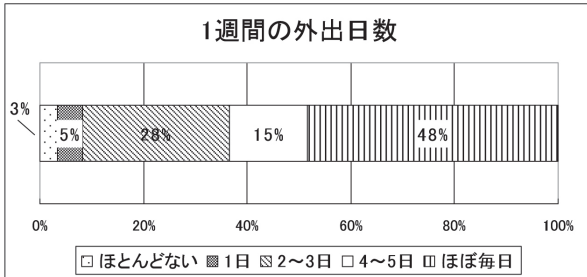


図4

単独歩行時の問題点 (図5、6) は、全体では「道路上の障害物が危ない」、「建物の玄関が分かりにくい」、「建物の内部の構造が分かりにくい」が50%を超えていた。

単独歩行時の問題点に優位差のあったのが、「道路上の障害物が危ない」61%、「段差が多い」48%、「段差の構造が分かりにくい」52%、「家族や知人が心配する」35%が白杖・誘導に多かった。「歩道がないので歩きにくい」57%、「歩道が狭いので歩きにくい」51%、「点字ブロックがないので歩きにくい」32%、「建物の内部の構造が分かりにくい」59%、「交差点の構造が分かりにくい」38%、「バスの停留所が分かりにくい」43%、「駅のつくりが分かりにくい」49%が盲導犬ユーザーに多かった。

これらの差は白杖操作技術や盲導犬操作技術における、障害物発見及び回避行動に対する違いと、ランドマークの利用方法の違いと考えられる。

「その他」の回答の中には、白杖・誘導では「段差の色が同系色で見えにくい」、「駅構内の点字ブロックの上に人が立っていてぶつかる」、「バスや電車内で空席状況を教えてくれると助かる」、「自転車とのすれ違いが不安である」、「周囲から声をかけてくれる」、「自分から声をかけるようにしている」、盲導犬ユーザーでは「溝にふたがないので道路端に寄れない」、「点字ブ

ロックが途中で設置していない」であった。

単独歩行時の問題点を改善するために33名(55%)の者が、フォローアップが必要であると回答した。必要なしの方は「必要に応じて訓練を受けている」、「現在は満足している」、「夫が勤務しているときは単独で歩いているが、現在は夫と歩いている」、「慣れてるところだけ歩いている」などであった。

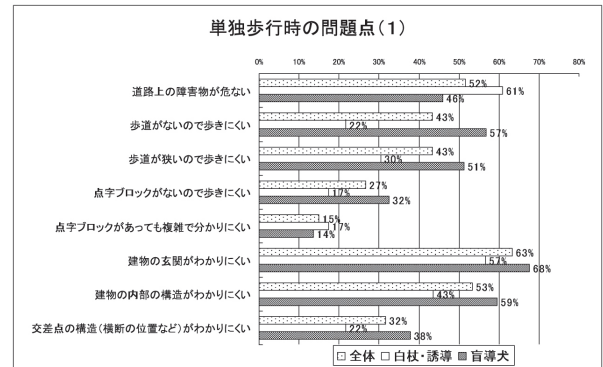


図5

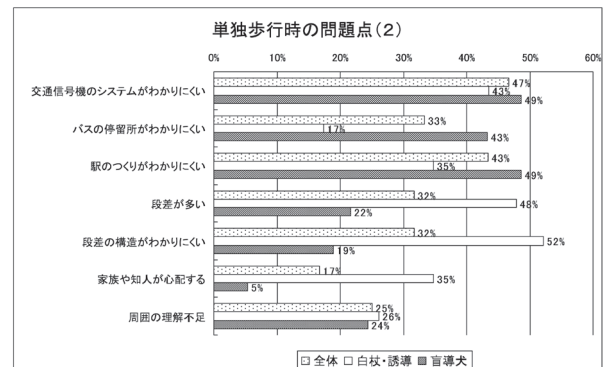


図6

単独歩行時の問題点のフォローアップ(図7、8)は、全体では「知らない地域での歩行方法」35%、「新規ルートの歩行指導」33%であった。

白杖・誘導では「直進歩行をする方法」17%で、伝うものがなくベアリングしてしまうためと思われる。「新規ルートの歩行指導」22%で、単独歩行に自信が付き生活圏の拡大を志望していると思われる。

盲導犬ユーザーでは「知らない地域での歩行方法」49%、「新規ルートの歩行指導」41%、「駅の乗り換え歩行ルート」30%で白杖・誘導と同様、単独歩行に自信が付き生活圏の拡大を志望していると思われる。続いて「犬のコント

「犬の基本訓練の指導」も24%で4人に1人が希望していた。「晴眼者に対して理解を求める方法」が24%あった。視覚障害者もいろいろなキャラクターを持っているが、日常生活の中でどのように盲導犬への正しい理解をしてもらうのか、様々な場面での研修が必要であると思われる。

「その他」の回答の中には、白杖・誘導では「視覚障害者自身がPRすべき」、「音響信号機を設置して欲しい」、「ガイドヘルパーの利用時間が少ない」、盲導犬ユーザーでは、「現地訓練を希望する」、「2年くらいして慣れてきました」、「和式旅館での犬の取り扱い方」、「家族がどのように関わったらよいか」、「歩行に不安がなくなった」、「交差点を不安なく横断できるようになった」であった。

## まとめ

今回の結果により全体では、「知らない地域での歩行方法」、「新規ルートの歩行指導」、「駅の乗り換え歩行ルート」など生活圏の拡大希望が明らかになった。

白杖・誘導では「直進歩行をする方法」、「新規ルートの歩行指導」を希望していた。

盲導犬ユーザーでは、「知らない地域での歩行方法」、「新規ルートの歩行指導」、「駅の乗り換え歩行ルート」などを希望していた。現在までは、共同訓練終了後にフォローアップや緊急性のある事由については対応をしており、定期的（週間・月間）に報告書の提出を求め情報の共有を図っていた。今回の結果により、その対応が十分ではなかったことが分かったので、報告書の書式の変更とコミュニケーションの充実を図っていくこととした。「犬のコントロールの指導」、「犬の基本訓練の指導」の希望については、共同訓練プログラムの中で、より時間をかけて実施することとし、更に職員（盲導犬ユーザー）による講義と相談の時間を導入することとした。

当訓練センターには盲導犬指導員、盲導犬訓練士、視覚障害リハビリテーションワーカー、盲導犬ユーザーが勤務している。「知らない地域での歩行方法」、「新規ルートの歩行指導」については、視覚障害リハビリテーションワーカーが対応することも可能であるため、積極的に取り組んでいくこととした。白杖・誘導の「直進歩行をする方法」は白杖操作技術の変化や道路環境の変化が考えられるため、視覚障害リハビリテーションワーカーが対応することとした。

外出歩行時において安全で安心した楽しい歩行を継続するために、早期にフォローアップを提供することが、単独歩行時の不安感の解消に繋がる。また、当訓練センターだけでなく、他の施設との連携を強化することも必要であると考える。しかし、フォローアップの訓練時間の確保と、訓練費用について検討課題として残っている。

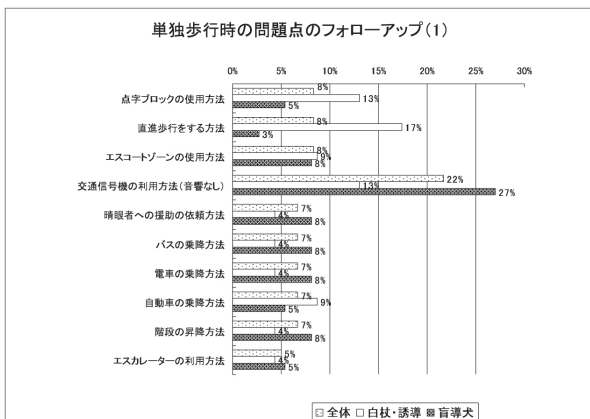


図7

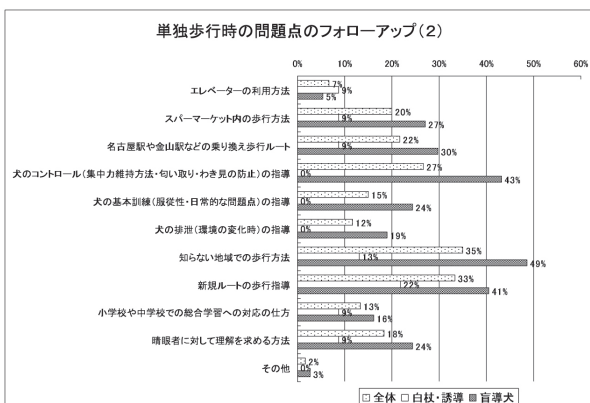


図8

## アンケート内容

視覚障害者の外出歩行時における  
問題点に関するアンケート

各設問の該当するところに、数字または○をご記入ください。

- 1 年齢 \_\_\_\_\_ 歳  
(平成 22 年 6 月 30 日現在)
- 2 性別 ア男性                      イ女性
- 3 視力 ア右) \_\_\_\_\_ イ左) \_\_\_\_\_  
視野 ウ右) \_\_\_\_\_ エ左) \_\_\_\_\_  
等級 オ \_\_\_\_\_ 種 \_\_\_\_\_ 級 \_\_\_\_\_  
疾患名カ \_\_\_\_\_
- 4 主たる歩行手段の状況  
(該当するものに○を付けてください)  
ア盲導犬 イ盲導犬と誘導 ウ盲導犬と白杖  
エ白杖と誘導 オ誘導
- 5 外出の頻度  
(該当するものに○を付けてください)  
1 日に ア 1 時間以内              イ 2 ~ 4 時間  
ウ 5 ~ 7 時間                      エ 8 ~ 10 時間  
オ 10 時間以上  
1 週間に カほとんどない キ 1 日  
ク 2 ~ 3 日                      ケ 4 ~ 5 日  
コほぼ毎日
- 6 単独歩行時の問題点 (複数回答可)
  - 1) 道路上の障害物があぶない
  - 2) 歩道がないので歩きにくい
  - 3) 歩道が狭いので歩きにくい
  - 4) 点字ブロックがないので歩きにくい
  - 5) 点字ブロックがあっても複雑で分かりにくい
  - 6) 建物の玄関がわかりにくい
  - 7) 建物の内部の構造がわかりにくい
  - 8) 交差点の構造 (横断の位置など) がわかりにくい
  - 9) 交通信号機のシステムがわかりにくい
  - 10) バスの停留所がわかりにくい
  - 11) 駅の作りがわかりにくい
  - 12) 段差が多い
  - 13) 段差の構造がわかりにくい

- 14) 家族や知人が心配する
- 15) 周囲の理解不足
- 16) その他
- 7 単独歩行時の問題点を改善するためにフォローアップ (再訓練) の希望の有無  
有の方 (複数回答可)
  - 1) 点字ブロックの使用方法
  - 2) 直進歩行をする方法
  - 3) エスコートゾーンの使用方法
  - 4) 交通信号機の利用方法 (音響なし)
  - 5) 晴眼者への援助の依頼方法
  - 6) バスの乗降方法
  - 7) 電車の乗降方法
  - 8) 自動車の乗降方法
  - 9) 階段の昇降方法
  - 10) エスカレーターの利用方法
  - 11) エレベーターの利用方法
  - 12) スーパーマーケット内の歩行方法
  - 13) 名古屋駅や金山駅などの乗り換え歩行ルート
  - 14) 犬のコントロール (集中力維持方法・匂い取り・わき見の防止) の指導
  - 15) 犬の基本訓練 (服従性・日常的な問題点) の指導
  - 16) 犬の排泄 (環境の変化時) の指導
  - 17) 知らない地域での歩行方法について
  - 18) 新規ルートの歩行指導
  - 19) 小学校や中学校での総合学習への対応の仕方
  - 20) 晴眼者に対して理解を求める方法
  - 21) その他  
無しの方  
・理由

ご協力ありがとうございました。

最後に、質問票以外に何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このアンケートについてももう少し詳しくお聞きしたり、何かの折にご連絡させていただいてよろしければ、下欄にお名前とお電話番号をご記入いただければ幸いです。

お名前

お電話番号